

の安定性を示した子どもの平均値は 62 % でした。

なお、母親のセンシティブリティや保育の質を測る際に何を基準にしていたのかをご説明しておきます。母親のセンシティブリティを測る 10 の指標を、資料 3 にあげました。また、保育形態については、保育者の子どもに対するセンシティブリティ・データを収集いたしました。これは、保育者が保育室全体でどのように行動するかではなく、対象の子どもに対してどのように行動するかをみるというものです。対象としたのは生後 6 カ月、15 カ月、24 カ月、36 カ月の子どもたちで、1 セッション 44 分の授業、2 セッションからデータを収集しました。二つの授業は 1 週間程度の間隔をあげ、各セッションでは、毎分ごとの保育者の活動を観察し、子どもとの相互作用の評価も含めました。資料 4 は、毎分ごとに測定する行動頻度の尺度を示しており、資料 5 は評価です。非常に似通った行動ですが、同一のデータ収集者により異なる情報が収集されています。

次に、母子間の相互作用について述べたいと思います。以前、報道関係者に研究結果を話していて気がついたのですが、一般的には愛着(attachment)と母子間の相互作用(mother-child interaction)の区別がされていないようです。これらは、別々に測定する二つの異なる概念です。愛着というのは、子

どもが母親に対して抱く安心感や信頼といったものです。一方、母子間の相互作用は、母親が子どもの心を読み取り子どもに反応することや、子どもの母親への思い入れといったものです。私たちは生後 6 カ月、15 カ月、24 カ月、36 カ月の子どもたちについて、定型化された母子の遊びを観察したものをビデオテープに 15 分間収録し、母子間の相互作用の質を評価しました。

表 3 でご覧いただけますように、家計所得、母親の学歴、夫婦・パートナー関係といった要素は、いずれも母子間の遊びにおける母親

資料3

母親のセンシティブリティ
(子どもの心を読み取る力)を測る指標

1. 子どもの情動を読み取る
2. 子どもの話や活動に反応する
3. 子どもの活動を促すが、過度に管理はしない
4. 子どもの興味を反映する活動をタイミングよく促す
5. 子どもが十分に元気づけられていない、過度に興奮している、疲れているようなときには、ペースを変える
6. 子どもの興味、喜びを理解する
7. 積極的な情動の共有
8. 適切な刺激を与え、適度な強さの幅と種類の活動を提供する
9. 悪い行為の内容に反応し、かつ子どもの理解能力、叱責から得られる便益に見合った、タイミングをふまえたしつけを考慮する
10. 素直さや自主性を扱う上で、柔軟に対応:素直でないことに過度に反応することなく、依存心を許容しつつ自主性を支える

表2

愛着の安定性／不安定性の解析
母親と保育との特に重要な関連性

	積極性のある保育 を受ける頻度	積極性のある 保育の段階	保育の量 (時間)	開始年齢 (生後何カ月)	保育開始
心理的適応性					
センシティブティ-遊び	*	*			*
センシティブティ-家庭		*	*		
*p<.05					